

あふれたモノ どう整理

シンプルに暮らす

「もったいない」「エコ」「質素に暮らす」「地球にやさしい」。こんな言葉が生活のあちこちで見られますが、底辺には「シンプルに暮らす」という共通テーマがあるようです。さて、モノがあふれている現代のなかで、どう整理をするか。京都在住の外国人による生活の工夫を取材するとともに、捨て方に困っているものについて調べました。

(文化報道部 行司千絵)

家電は必ず修理

◇…………◇ 空き瓶は酒店へ

ドイツ出身で、京都市中京区のマンションに家族四人で暮らしている梅村マルティナさんは「できるだけ物を少なくしています。でも、自然にしていることなので」と笑う。

マイカーは持たず移動は公共交通機関。家電製品が故障した時買い替えた方が安くても、必ず一度は修理する。こみを出さない工夫は随所にある。肉や魚のトレーはスーパ―に返す。ビールは瓶をケース単位で買い、空き瓶は酒店へ。子どもがスポーツドリンクを飲む場合は水で溶かして使う粉末タイプを利用する。掃除機は専用のこみ袋を必要としないものを使う。菓子は「子どもの教育を考え」できるだけ自分で作るが、買う場合は個別包装ではないもの。パン



子どもたちが就寝時に使う「キルシュ キャン キッセン」はドイツ語で「サクランボの枕」の意味。「洗うこともできて衛生的です」と梅村マルティナさん(京都市中京区)

ドイツ流 ごみ出さず知恵を出す

も手作りして「節分用の豆や余った米もパンに混ぜて焼きます」。冷蔵庫にあるものを把握し、牛乳など常備のものがなくなるとリストを作る。買い物では、店頭の商品を見て料理を決める。「旬のものが食べられるし、余計な材料を買うこともありません」

エネルギーも使い過ぎないように心がける。自宅は七階にあるが、荷物が多い帰宅時だけエレベーターを利用。ふだんは階段を使う。年に二度、故郷へ帰るが「飛行機なので心が痛む」。燃料のなかった外国産の食べ物を選ばず、地域で作られたものを積極的に使う。パルプから作る箱入りティッシュは来客用。普段は再生紙のトイレットペーパーをティッシュ代わりに。封筒も新製品は買わず、あて名部分に紙を張って再利用する。

夏は窓を開け、扇風機を使う。冬は部屋のドアを小まめに閉める。子どもたちの就寝時は、サクランボの実を詰めた枕が登場する。ドイツの家庭では、よくサクランボの酒を作る。不要になったサクランボの実を乾燥させ、布袋に入れて温める。日本でいう小豆袋とよく似ている。

小学一年生と三年生の二人の男の子の母だが、「おもちゃは電池が必要のないものと決めてます」。子どもたちは不要の菓子箱などでおもちゃを作っているという。子どもの洋服はお下がり、アイドリングストップ、水の無駄遣いを防ぐ食器洗い機の導入などドイツ

ツではごく当たり前のことばかり。「日本に来た時には自動販売機を見て『こんな無駄を』と驚いたけれど、こたつや風呂の水を再利用することなど良さも知りました」